



大和化学工業株式会社

武 田 好 晴*

1. 会社概要

社名	大和化学工業株式会社
設立	1958年6月1日
資本金	1億円
代表者	代表取締役社長 小安 恵 ^{ノボル}
従業員	75名
売上高	約18億円(58年度)
事業所	本社 大阪市東淀川区上新庄3-1-11 工場 大阪、東京
事業内容	繊維染色助剤・防炎剤、工業用殺菌防黴剤、製紙用助剤、工業薬品の製造販売

2. 当社のあらまし

当社は、1958年6月1日(昭和33年)染料、工業薬品等の専門商社であります、大阪合同株式会社の工場部門を分離独立し、大和化学工業株式会社として、大阪を本社とし大阪工場と東京工場と東西に拠点を有し、大阪工場は主として繊維用薬剤、防炎剤、東京工場は主として殺菌剤、工業用防腐防黴剤を生産していますが、両工場に研究所を設置し、研究開発から生産、販売まで一貫した体制により、ファイン、スペシャリティ・ケミカルメーカーとしてユニークな製品の生産を展開しています。

3. 商都に発展した大阪工場

大阪工場は1943年関西硫黄工業所を大阪合同株式会社が買収し、二硫化炭素の製造を行なっていましたが、1958年6月1日に分離独立し、大和化学工業株式会社大阪工場として今日に至

っています。現在は創立当時の二硫化炭素の製造を中止して新しい繊維助剤、防炎剤を中心として生産しています。この大阪工場は市街の中心を流れています。淀川の北側に位置し、その清らかな水を取り入れて、発展してきました染色工場に囲まれています。しかし最近この淀川水系も日本の高度成長、経済の発展と共に、公害により序々に悪化しつつあります。当社は、これ等水の恩恵を受けている染工場に少しでも水の負担を軽くすることが出来ないだろうか、或は特に最近の燃料費の高騰による苦境に対して何とか合理化出来ないだらうかと考えて新しい染色薬剤の開発に取組んで参りました。先づ水を節約した染色は出来ないだらうか?、質の悪い水でも立派な染色は出来ないだらうか?今迄は環境の良い処で作業することが必要条件でしたが、我々はこの逆な悪条件で、且つ省力化する方法を特に開発の重点において商品を開発してまいりました。この目的にそった、合理化、節水、省力化、の染色助剤の開発によって、これ等のシステム化のノウハウを提供することが可能となり大変喜ばれて居ります。当社はこのシステムは大阪の地にあった為に可能になったものと考えています。生産と技術は逆境であればある程、高い水準に到達することが出来るのではないかと思います。

これ等のニーズによって開発された染色助剤「ダイクリン」を中心とした薬剤を上市し一連の染色工程の合理化システムを推進し、従来の染色時間を大幅に短縮すること、節水を実現し、業界に貢献しています。次に当社がもう一つの開発理念としているものに人命の貴さ、生活の充実観に一層役立つ薬剤の開発があります。最近問題になっています、高齢化社会における人間工学、および生物化学的対応と健康な生活の持続を、テーマとした化学薬剤の開発に

*武田好晴(YOSHIHARU TAKEDA), 大和化学工業株式会社、マーケティング開発部長、常務取締役、応用化学

取組んでまいりました。即ち綿用の耐洗濯性防炎剤で、商品名は「フランTWF」なる名称で展開中であり、またこれらの防炎薬剤は、我々の生活の中で大変重要な役割を果たしています。その一例として、ホテル、劇場、学校、等公共機関等のカーテン、カーペット、ブラインド、壁紙、障子等に、また自動車、航空機、新幹線車輛、寝台車の内装材の難燃化に利用され、火災の危険防止対策と社会的な環境の向上の為に積極的に取組んでいます。もう一つ我々を取り巻く環境悪化を防止し、浄化促進に役立つ薬剤の開発には、最近クローズアップされています。バイオテクノロジーの応用についても積極的な展開を実施中であります。

4. 新研究棟完成の東京工場

当社東京工場は、東京都の東端に位置し、江戸川と中川にはさまれた関東平野のデルタ地帯にあります。この工場も大阪工場と同様にその母体は、小松川製紙所を大阪合同が買収し、東京工場として発足しました。当時は、戦時中でこの工場では、陸軍衛生材料本廠に納入する、腸内殺菌剤局方クレオソート油（現正露丸の原料）を松根油から採取したテレピン油の蒸留液より水蒸気蒸留により分離精製を行なっていました。また外用消毒剤として商品名「オゲゾン」等の医薬品を主として生産してまいりました。その後、これ等の医薬品製造の技術を生かし殺菌消毒剤と動物用医薬品に進出し、特に動物用駆虫剤「ヘルミノック」は日本国内を始め、東南アジアに広く使用され、畜産界の発展に貢献してきました。その後畜産界の変革に伴いこの業界より転換し、これらの技術力を生かし、工業用殺菌剤、防黴剤開発の基礎となり今日に至っています。最近特に注目されています、バイオテクノロジーに対しても積極的に進出展開を計画し、昨秋に当工場に延約280平方メートルの新研究棟を建設しました。この研究棟には、クリーンルームをはじめ各種の実験器具装置の最新なものが設置され、先端産業技術分野に照準を当て、これ迄微生物を取り扱う仕事を手がけてきていることから、この経験をベースに、種々の薬剤を上市してきました。最近新し

い日常生活の価値観を見い出した薬剤に、敷島紡績株式会社と提携し開発しました、「ノンスタック」があります、これは抗菌防臭加工として、靴下、肌着、トイレタリー製品、寝装具、カーテン、カーペット、に加工され、臭いのもとなる細菌を防止し、快適な生活を演出してくれます。また高齢化社会の対応商品として、病院、老人ホーム等の環境改善に好評を博しています。また殺菌剤の関係では、「アモルデン」、「バイオデン」の名称で、塗料、酢ビ、アクリルエマルジョンなどの接着剤、澱粉、C.M.C.等の糊料、界面活性剤、繊維製品用柔軟剤、繊維製品、建材、木材、紙製品等、私達の身近にある生活必需品の防腐、防黴、対策を進めています。

次に東京工場のもう一つの柱である製紙薬剤があります。特に近年この分野においても省力化、軽量化、エレクトロニクス対応化が進んで来ています、この目的に合った、製紙薬剤の商品化は非常に重要な問題となっています。これ等の目的にあった薬剤として注目されて来たのが紙力増強剤、塗料歩留り向上剤のカチオン澱粉があります。当工場ではこれを、省力化した可溶化製品「ソルダイン」シリーズがあり、液化されていますので非常に作業性がよく、更に天然糊料が原料でありますので分解性良好で公害上でも大変有利な為に、大手製紙会社に採用され好評であります。それは各工場の用途に応じて各種の薬剤を供給しています。

その他製紙用薬剤として、特許商品を数多く上市し、そのユニークさが活用されています。その一例として、最近東京都、千葉県等に使用されています、ゴミ袋のポリ袋に代り、完全撥水の紙袋があります。これに使用されている、撥水剤は特殊な撥水剤で商品名「コートサイザー」シリーズであり、内添でも、コーティングでも使用出来るもので公害が少いと好評であります。

5. 今後の商品展開

当社は東西の拠点を更に拡大し、北は北海道、南は九州沖縄、或は、近隣諸外国にも、我々の特長ある商品を展開すべく、今期より、技

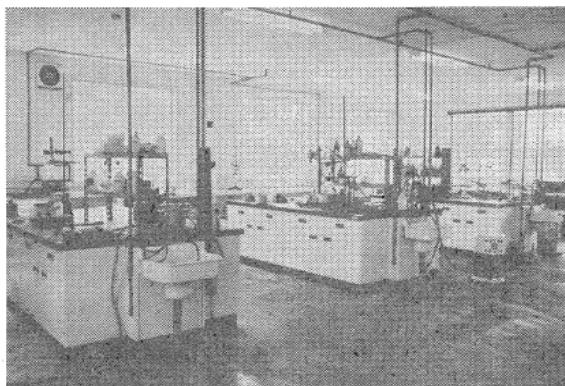
生産と技術

術開発と共に更に積極的な、マーケティング開発を指向し、ハイテクビジネスにも対応すると同時に、最新技術の修得と、他に無いユニークな商品の開発に全力を傾注すべく努力しています。

それには、产学共同の機会を取り上げ、企業

内に新風と学問との連携を強化すべく、一丸となって進展中であります。我々の理念は快適な生活と技術の一体化、更にそれ等の経済的な価値の向上にあり、化学を通じ、社会に奉仕出来ることをモットーとし前進致します。

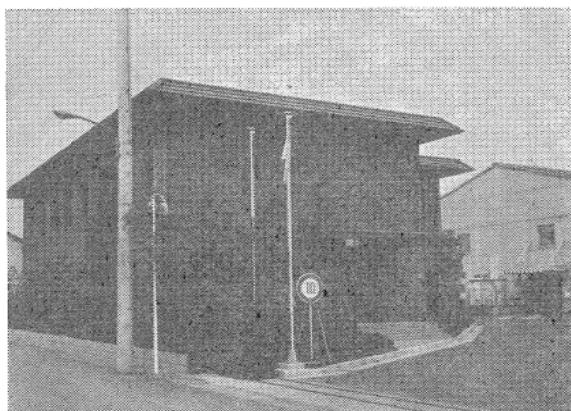
(完)



大阪工場研究室内部



D C 本社事務室



大和化学工業㈱東京工場研究棟